

北京目指し「かきに力

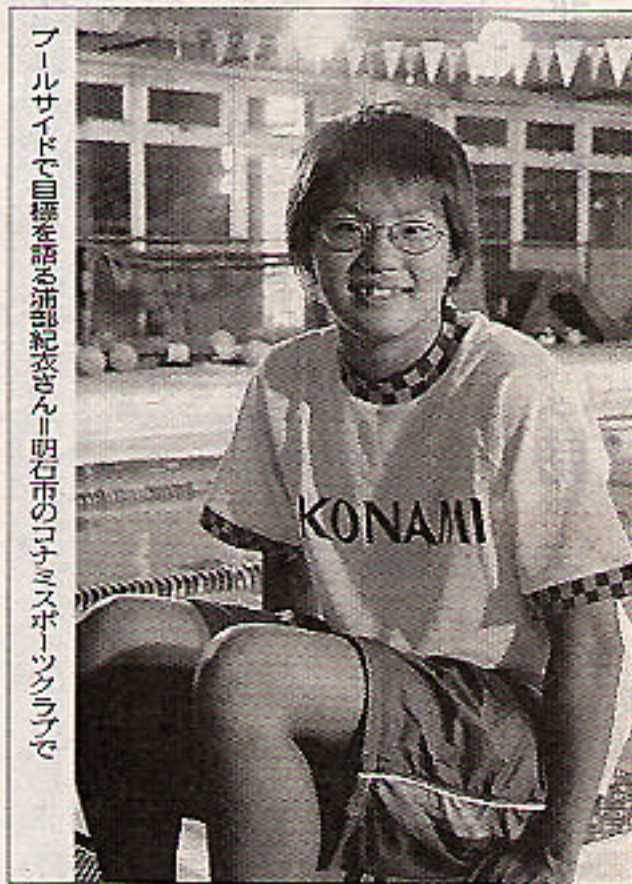
アスリート 列伝

狙っていた。そして狙った通りになった。

今月中旬、埼玉県であった国民体育大会の競泳。中距離が専門の須磨学園高校3年、浦部紀衣さん(17)は、予選での自分の泳ぎに自信を深めていた。手の「かき」で遠くまで体が進んだ。「記録が出る」

須磨学園高3年

浦部 紀衣さん(17)



プールサイドで目標を語る浦部紀衣さん。明石市のコナミスポーツクラブで

挫折越え、競泳自由形で国体・高校総体2連覇

コナミスポーツに所属。アテネ五輪にも出場した山田沙知子選手らを育てた田村コーイチ(17)は、予選での自分の泳ぎに自信を深めていた。手の「かき」で遠くまで体が進んだ。「記録が出る」

いっか世界で戦える」。中学1年のころから田村コーイチに本格的な指導を受け始めた。

挫折もあった。アテネ五輪代表選手選考会を兼ねた今年4月の日本選手権。泳ぐ前から気ばかり焦る自分を感じていた。1000メートル2000メートル自由形。飛び込んで「かき、二かき……。自分で泳いでいるという感覚がなかった。ともに3位。夢だった五輪代表の座は、あと一歩のところまで逃げていった。「考えが甘かった」と振り返る。

「しばらく気持ちの切り替えができなかった。記録が出ず、焦る自分。それが原因でまた記録が伸び悩む悪循環。しばらく悩んだ。

そんな時、先輩の山田沙知子選手にもらった手紙に励まされた。練習がきつくて水泳をやめようか悩んでいた中学1年の終わりのころ、さっと手渡された手紙だ。奥の3枚に書き添えて「しつと書かれて

「自分もやめたいと思っただけがあった。でもそれを乗り越えればもっと上を目指せる」

落ち込んでいると、書き添えられた手紙は読める。少しずつ気持ちを切り替え、陸上だ8月の全国高校総合体育大会。1000メートル、2000メートル自由形で2連覇を達成した。

練習は厳しい。11月から2月の泳ぎ込みの時期には1日2回、近く泳ぐ。朝5時半から7時まで約5.5泳ぎ、練習を終えて高校へ。授業が終わるとまたプールに戻り、午後9時ごろまで約20分。目標のタイムが出ないと何度もやり直す。田村コーイチは「世界で戦えるよう、段階を踏んで練習を積んでいる。目標をもっと具体的に持ってくれれば」と期待する。厳しい指導は期待感の裏返しだ。

「北京五輪でメダルをとる」。まっすぐ前を見つめて話す浦部さんの目に、力がこもっていた。

(石山英明)